

## 2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
教育学部 子ども発達学科	教授	山本かほる
最終学歴	学位	専門分野
愛知教育大学 教育学部	学士	国語科教育 教師教育

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

理論と実践の両面、両者の有機的な結びつきを意識するとともに、常に最新の情報・知見をふまえた教師教育を行う。

実務家教員の役割として、学校現場での経験に基づいた実践例を学生に伝えることが期待されている自覚を踏まえつつも、それぞれの経験談や実践例に理論的な裏付けがあるかどうか、一般化できる内容なのかは常に検証していく。また、常に最新の情報や知見も取り入れるよう、研究を怠らない。

##### 【目標】

「天に事うる職分」としての教職のやりがいや魅力を伝え、教職へのモチベーションを向上させる。どの学生も「子どもが好きだから、子どもの成長に関わる仕事がしたい」「恩師のようないい先生になりたい」という純粋な気持ちをもって入学してくる。しかし昨今の「ブラック職場」という報道に接して不安になり、途中で志を折ってしまう学生も少なくない。そこで、多忙ではあるが多くの教員がやりがいと充実感を感じながら子どものために尽力している教育現場の現状を正しく理解させるとともに、学生が教育実習や教員採用試験に自信をもって取り組めるように、基礎的な知識・知見と実践力をしっかりと身に付けて送り出すとともに、個別面談をきめ細かく行い、学生の悩みに寄り添う温かな指導を心がける。

##### 【方針】

対話的な学びなど、アクティブラーニングを意識した授業手法を多く取り入れる。学生が教員になった時に、旧来型の画一的な一斉授業から脱却し、アクティブで個別最適な学びを実践してほしい。そのために、その参考になるような授業を自ら実践して、どんな学びがアクティブなのか、個別最適なのかを体験的に学ばせたい。特に教師教育では必須の模擬授業を、教科教育法の授業や教育実習事前指導および教職実践演習でできるだけ多く取り入れ、「良い授業とはどんな授業か」について、授業を受ける子どもの目線から実践的に学ばせたい。

##### 【計画（方法）】

教職のやりがい・喜びを伝え、今の教育現場の実情に応じた、実践的な力を身に付けさせる

#### **教育実習事前事後指導（前期）・教職実践演習（後期）**

教育実習においては、実習生といえども、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」にあるように、一人の「教師」として責任ある言動を心がけるよう、過去の事例も紹介しながら具体的に指導する。しかし一方で、子どもと接する楽しさ、授業を工夫するクリエイティブな楽しさも伝え、実習が楽しみになるようなポジティブな気持ちで実習に臨ませる。

学生が最も不安を訴える研究授業に備え、1対1の個別指導で授業のねらいを明確にした指導案作成についてとことん指導する。そして完成した指導案をもとに、実際の教室を模した形で全員に

模擬授業を体験させ、少しでも現場に近い形で授業力を磨き、不安を取り除いて現場に送り出した。また、全員を対象として実習の前後に個別面談を行い、実習への不安解消や有効な振り返りを目指す。さらに事後指導の最後に開催する成果発表会は学生の自主運営に委ね、実習での自己の成長を実感させる場としたい。

教育実習や教員採用試験・院進学準備及び事務手続きについては「事前事後指導の手引き」に一括掲載し、ワンストップで一貫して指導するものとする。

また後期の教職実践演習では、4年間の教職課程での学びの総仕上げとして、履修カルテを完成させて振り返りをしっかりと行わせる。また、指導案作成・模擬授業を再び実践させ、事前検討・事後検討を通して教育実習前の自分と比較することで、各々の自らの成長と課題を実感させたい。

### **教職特講（面接・論文講座 前後期） 教職セミナー（後期）**

教職特講では、1次の論文・2次の面接対策を担当している。自作の「面接・論文の教科書」を活用し、繰り返し学べるようにしたい。また、論文・面接対策の基礎として必要な、教職教養の知識や現代的な教育課題についての知見を身に付けるための資料については、最新の教育課題を盛り込んでアップデートするものの分量はできるだけコンパクトにし、ポイントを繰り返し学んで着実に身に付くようにしたい。受講生一人一人が受験する自治体ごとに過去問をまとめた資料も作成・配付し、学習が効率的にできるようにしていきたい。

初等教職課程3年生全員を対象とした教職セミナーを2月に予定している。特講生以外の学生にとっては、教採について学び、面接などを体験する貴重な機会となるため、配付資料や外部講師の一層の充実を図りたい。今年度は小論文対策もセミナーの内容に取り入れられないか検討したい。

#### ○担当科目（前期・後期）

（前期）

サービス・ラーニング実習Ⅰ、基礎演習Ⅰ、教育実習Ⅱ（小学校）、教育実習事前及び事後の指導（小学校）、国語、教職特講（論文・面接対策）

（後期）

サービス・ラーニング実習Ⅱ、基礎演習Ⅱ、教職実践演習（幼・小）、国語科教育法 教職特講（論文・面接対策）

#### ○教育方法の実践

##### **「教育実習事前事後指導」（前期）**

教科書となる「教育実習Ⅱ事前事後指導の手引き」に毎年改良を加えている。折々の教育時事を取り入れる他、例年実施される名古屋市教育委員会・愛知県教育委員会の実習打ち合わせ会の資料を参考に、実習校や教委から出された指摘事項をもとに実習に向けた心構えの内容についてアップデートしている。また、指導案作成については昨年度に引き続き1対1で、個別対面で実習生と対話しながら十分に時間をかけて指導した。また模擬授業とその事後検討についても2クラスに分けて行うことで時間をかけて丁寧に行った。いまやどの学校現場でも使われているロイロノートについても、外部講師を招聘して講習も行った。

特に工夫しているのは、学生が最も緊張し、またミスも危惧される実習校との関わりや煩雑な書類作成についてマニュアル化し、授業や指導に関わる内容と合体して1冊の手引きで実習に必要な実務と学習が全て網羅されるようにした点である。「小学校教育実習実施要項」についても、教委や実習校からの「働き方改革」に対応した実習内容に、という要望に沿ってさらに改訂を加え、実習校の理解と協力が得られるよう努力した。また教員採用試験前倒しに伴う実習期間の早期化により、事前指導の時間が不足する心配があったので、今年度から前期ガイダンスで事前指導スタートとし

ての実習オリエンテーションを行った。

注力したのは、教育実習前の学生の不安を軽減するための個別面談である。実習生の不安な点や疑問を丁寧に傾聴し、時間をかけてアドバイスした。また実習後にも個別面談を行い、実習を振り返って今後の成長につなげるとともに、今後の教員採用試験対策や進路についても話し合った。

令和4年度まで連続2年間、実習不合格者が1名ずつ出ていたが、今年度は昨年度に引き続き全員合格し、実習参加者全員に免許を取得させることができた。

授業評価アンケートの結果は以下の通りで、授業目標はほぼ達成できたと捉えている。

評価の結果 (5点満点) : 全項目平均 4.8 点 (質問 10 項目のうち 5 点 : 1 項目 4.9 点 : 3 項目 4.8 点 : 2 項目 4.7 点 : 4 項目) 回答数 20 名中 19 名
学生の声 (全て掲載) この授業について良かった点を自由に記述してください ・教育実習を通して、教員になるために必要となる沢山のことを学ぶことができました。板書や、言葉かけ、指導力や授業力など教員になるには様々なことを磨かなければいけないと、この授業を通してより強く痛感しました。 ・実習で不安なことを親身になって指導してくれた ・実習のためになることがたくさんあってよかった。 ・事前に確認する事ができて安心できた ・先生方が親身になって様々なことに相談に乗っていただいた。 ・実習の手引きがわかりやすかった ・実習に行く前に、個人面談をしていただいたことで、実習への不安が軽くなりました。指導案の指導も親身になってご指導くださり、実習ではスムーズに指導案作成に取り組むことができました。  この授業について改善すべき点を自由に記述してください ・電子黒板に触れる機会がもう少し増えると良いと思いました。 ・模擬授業を 45 分しかかった ・模擬授業は特に力を入れてほしかった(1 人 1 時間分の授業をさせて欲しかった、子ども役としてイレギュラーな発問をさせるように先生が仕向けたりして欲しかった。)

「改善すべき点」の「模擬授業を 45 分 1 人 1 時間分を」という要望については、今年度は受講生 20 名という状況で難しかったが、来年度は受講生が減少するため、もう少し長い時間を割り振ることはできそうである。電子黒板の活用や子ども役の指導についてはさっそく取り入れていきたい。

#### 「教職特講」(前期)(後期)

4 年生を対象とした前期「教職特講」においては、5 名が採用試験合格を勝ち取ったほか、特講生以外の学生にも、1 次合格後の個別面接特訓を実施することで、3 名が採用試験合格を勝ち取った。また、4 名が大学院進学という結果となり、どの学生も希望を叶えることができた。自治体別に作成した過去問集、教育時事を分析して作成した対策資料や、2 次の面接対策をマンツーマンで一人あたり 6 時間以上集中して行ったことが奏功した。しかし、1 次合格したにもかかわらず辞退した学生も数名おり、受験自治体の選定やその後の指導については課題が残った。

採用試験後の学生からは、

「小論文は特講で習った書き方通りに書いたので、時間内にすらすらと書けた」

「自治体別面接過去問を何度もおさらいし、個別に練習してもらったので、本番は想定内の質問ばかりで落ち着いて答えられた。」

「どの面接官も山本先生よりも優しく感じられたので、リラックスしてできた。厳しく指導してもらって良かった。」

との声が聞かれている。

反省事項としては、人間健康学部で小学校受験を希望する学生の対応が挙げられる。情報共有が遅くなり、第1志望の面接・論文過去問を作成して渡すことや、第2志望の集団討論の練習を教育学部の学生とともにやることしかできなかった。来年度は人間健康学部との情報共有を心がけ、教育学部の特講に早い段階から参加できるように配慮していきたい。

2年生を対象とした後期「教職特講」については、来年度に教員採用試験に3年生で受験する予定の2年生を対象として新たに立ち上げた講座である。1次試験のみの受験だが、愛知県も名古屋市も小論文試験は1次で実施されるため、小論文の書き方の基礎的なスキルを数回レクチャーした後、論文の添削指導を個別に実施した。

3年生を対象とした後期「教職特講」は、来年度4年生で受験する3年生対象の講座である。まず基本的な教職教養の知識や、現代的な教育課題についての考え方、面接・論文の基礎的なスキルを学ぶことからスタートした。スタート当初は、基礎的な学力の差が目立ったが、年度末に近づき知識やスキルが身につけてくると、どの学生も自信をもって演習に臨めるようになってきた。

### 「基礎演習Ⅰ」(前期1年生ゼミ)「基礎演習Ⅱ」(後期1年生ゼミ)

前期基礎演習では、ガイダンスでは言及できなかった大学生活での注意事項について、「楽しく充実した大学生活のために」というパワーポイント資料を作成し、指導することからスタートした。その後、他の担当教員と何度も話し合って指導計画を立て、

- ・ワールドカフェ形式の話し合い「大人ってどんな人？ 自分は大人？」
- ・絵本についての講演の後、自分が選んだ絵本で「本の帯」作成
- ・知育玩具ジナゾルについての講演
- ・うりんこ観劇会
- ・愛知児童総合センターの見学

など、アクティブに学べる内容に取り組んだ。「本の帯」では、自分が学校現場で小学生に指導した経験を活かし、パワーポイント資料を作成・指導することができた。学生による意欲の差はあったものの、座学では見られないいきいきとした様子が見られた。しかし、前期の終わりごろになると、修学意欲の低下による欠席や遅刻が目立つようになってきた。保証人との面談や個別面談を何度か行い、悩みなどの相談にのったり欠席しないよう励ましたりし続けたが、結果として修学意欲の消失による退学1名、経済的理由による退学1名を出すことになってしまった。

後期基礎演習では、学園祭の「キッズ広場」の取組みが主となった。リーダー的な素質のある学生の活躍もあり、個性的なメンバーのまとまりの悪さを乗り越えて、当日は地域の子どもたちを迎えて楽しいイベントとなった。また新たな試みとして東山動植物園にも見学に出かけ、絶滅危惧種の動物を通してSDGsについて学んだ。普段あまり意欲的ではない学生が、びっしりと感想を書いてきて驚く一幕もあった。ただ、欠席・遅刻が目立つ学生がやはりおり、面談やTEAMSチャットによる丁寧な個別指導を繰り返し行った。

## 「国語」(前期)

教科指導においては、

- ①何のために (教科の目標) ②何を (教科の内容～この教科でつけたい資質・能力)  
③何で (教材論) ④どのように (指導法)

の4観点から考える必要がある。そのうち、前期「国語」は①(国語科の目標)②(国語科の内容～国語科でつけたい資質・能力)について学び、後期「国語科教育法」では③(国語科の教材論)④(国語科の指導法～指導案作成・模擬授業の実践)を学ぶ、という捉えだが、今年度は特に前後期の連続性を意識し、後期に指導案を作成する教材の分析や簡単な指導計画を、前期のこの授業で作成する内容とした。また、デジタル教科書の活用講座を設定し、ゲストスピーカーを招聘して、実際に国語のデジタル教科書を操作したり、活用方法を考えたりする学習を行った。

昨年度、一昨年度は授業評価アンケートの対象外だったため、独自アンケートを実施しその結果を掲載していたが、今年度は対象となったので、以下簡単に結果を掲載した。

評価の結果 (5点満点) : 全項目平均 4.7 点

(質問 10 項目のうち 4.8 点 : 2 項目 4.7 点 : 5 項目 4.6 点 : 3 項目)

回答者 : 13 名中 13 名

学生の声 (全て掲載)

この授業について良かった点を自由に記述してください

- ・ IT 機器を使った授業を取り入れていただけ最新の授業の雰囲気を知ることができた。
- ・ 山本先生の授業は九十分あつというまですごく学ぶことがたくさんあります！
- ・ 授業構想をメインに扱い、教育法に繋げやすい内容だった。
- ・ 小学校の現場を色んなことしました。
- ・ 授業構想にしっかり赤で直してくれていたから何が悪かったのか理解できた。
- ・ タブレットをつかったり、本時のめあての大切さがわかった。
- ・ 指導案を書く機会が多くてとても良かった。
- ・ 人に伝える難しさを学びました

この授業について改善すべき点を自由に記述してください

- ・ 提出物が PC 入力にできれば良い

この結果からも、授業の目標は概ね達成できたと考えている。「提出物を PC 入力に」という改善要望については検討し、授業内容のメインとなる「授業構想」の作成をデータ入力のできる形に改善するよう、現在準備中である。

## 「国語科教育法」(後期)

例年教育実習事前指導で指導案を作成させる際、基本的な知見が身につけていない学生が多いことを踏まえ、指導案についての基本的な知識をしっかりと身に付けさせることから始めている。指導案各項目の意義や用語解説に3コマを費やし、さらに「指導案の間違い探し」を行い、学生が陥りがちな指導案作成の勘違いやミスについて押さえ、知識・技能面での万全を期してから指導案作成・模擬授業に臨んだ。その結果、国語科指導案を作成させて添削指導を行う際には、用語の誤りなどの基礎的なミスが減り、内容面の指導に注力することができた。

例年この授業では、モバイルなホワイトボードを黒板代わりとしてグループごとの模擬授業に取り組んでいたが、今年度は受講人数が13名と少なかったため、初めて黒板を使った全体授業にし

た。グループ形式では1人あたりの授業時間は充分とれるが児童役は2~3人となってしまい、多様な児童を想定した授業ができない。一方全体授業では、1人あたりの授業時間が15分から20分で展開部分の途中までとなってしまいが、児童役は授業者以外の全員で実際の授業に近い形となり、板書もできる。このようにグループ別模擬授業・全体での模擬授業、それぞれ一長一短があり悩ましいが、来年度はどうか引き続き検討材料としたい。

しかし毎回の模擬授業では、授業者になった学生は自作のフラッシュカードや挿絵・写真を掲示したり板書したりしつつ、本物さながらの授業を行うことができた。フラッシュカードやワークシートを工夫して作成してくる学生も、回を追うごとに増えていった。授業者以外の学生にも毎時課題として全員に指導案を作成させたので、模擬授業で学んだことが活かされ、毎回内容が向上していった。子ども役の学生は子どもになりきり、しばしば笑い声も響く楽しい雰囲気だった。

指導案のPC作成について学生のスキルの差が大きかったため、初めのうちは手書きも可とし最後だけPC作成を義務としたが、来年度はできるだけ早い段階からPC作成を義務づけ実習に備えたい。

昨年度、一昨年度は授業評価アンケートの対象外だったため、独自アンケートを実施しその結果を掲載していたが、今年度は対象となったので、以下簡単に結果を掲載した。

評価の結果（5点満点）：全項目平均 4.7 点

（質問 10 項目のうち 4.8 点：2 項目 4.7 点：5 項目 4.6 点：3 項目）

回答者：13 名中 13 名

学生の声（全て掲載）

この授業について良かった点を自由に記述してください

- ・指導案の書き方が詳しくわかった。本時のめあての大きさがわかった
- ・国語科の指導案について、どのようなことに注意すべきなのか、どうやって書き進めていけばいいのかが言葉遣いについても、学ぶことができました。
- ・指導案がかけるようになってきました！
- ・実践を主に行い教員になるものとして自覚を得ることができた
- ・国語科教育法では、2回に1回は指導案を作成するタイミングがあり、自分自身も教材研究をして、知識を深め、実践の姿を想像して考えることが出来、とても実りのある授業でした。
- ・王冠シールや、次週の振り返りで褒められた時にすごく嬉しかった点。  
指導案を作成する際、不安なことが多かったがまずなからしいのか基本を教えていただき、さらにフリーで学ぶことができました点。また、指導案の内容ではペンの色分けで指導していただき、書き方や形式なども学べた点
- ・指導案の書き方について学んだ上で、模擬授業をすることで、これから教師になった時に役に立つと思った。

この授業について改善してほしい点を自由に記述してください

- ・特にありません！

評価結果から、指導案作成の基本的な考え方や作成の方法について学び、模擬授業を通して国語の授業力の基礎を身に付けるという本授業の目標は概ね達成されたと考える。どの学生も授業力を身に付けようと前向きで、指導案作成や模擬授業の授業者に、誰一人欠けることなく取り組むことができた。指導案を添削・返却する度に学生の力量の伸長を実感するとともに、学生の指導案や模擬授業から自分自身新たな発見もあり、共に成長できた半年だったように思う。

## ○作成した教科書・教材（改訂も含む）

### 基礎演習 I

パワーポイント教材「楽しく充実した大学生活のために～メール・TOPOS TEAMS を  
使いこなそう」

パワーポイント教材「本の帯って？」

### 前期「国語」

パワーポイント教材「国語」

水筆による毛筆実習教材

### 後期「国語科教育法」

パワーポイント教材「国語科教育法」

学習資料

「国語科指導案作成例集」A 細案編 B 略案編

「国語科指導案 間違い探しワークシート」

「模擬授業事前・事後検討会 グループマニュアル」など

### 教育実習事前事後指導

学習資料「教育実習 事前事後指導の手引き」全 60 ページ

「学校ってどんなところ？」

「子どもとどう向き合うか」

「示範授業のどこをどう見るか」

「実録！ 教育実習事件簿」等

「指導案例集（新学習指導要領対応）」（名古屋版）（愛知県版）

「教育実習ノート」

「教育実習日誌」

### 教職特講

「教員採用試験 面接の教科書」

「教員採用試験 論文の教科書」

「面接・論文用学習資料&面接想定質問集～人物を問う質問 編」

「面接・論文用学習資料&面接想定質問集～教育観を問う質問 編」

「面接・論文用学習資料&面接想定質問集～教職教養を問う質問 編」

「各自治体の面接・論文過去問集 最新版」

名古屋編・愛知編・岐阜編・福岡編・静岡編・北海道編 長野編 沖縄編

「個人面接相互評価表」「集団討論相互評価表」「場面指導相互評価表」「小論文相互評価表」

## ○自己評価

学生の思考・感情を揺さぶり、「自分ごと」として考えさせ、学生の頭の中を常に「アクティブに」する参加型の授業を心がけてきた。前掲の授業評価アンケートや毎回授業で記述させた感想などから、ほぼ達成ができたのでは、と感じている。

大学が実施する授業評価アンケートは一部の授業に限られるが、対象とならなかった年度も自主的に授業評価アンケートを実施し、PDCA による授業改善に努めたい。

## II 研究活動

### ○研究課題

国語の授業でアクティブな学びを実現するために「この授業でどんなことばの力をつけるのか」を、学習指導要領や指導書を読みこなしつつどのように明確にするか、またそのための指導案作成をどのように段階的に指導するか

### ○目標・計画

#### 【目標】

学習指導要領に示された国語科の「内容」を踏まえて、「この授業でどんなことばの力をつけるのか」を明確にした国語の授業を実践できる力を身に付けさせる。

小学校では全学年で毎日国語の時間があり、教科の中では一番時間数が多い。最近多くの小学校で教科担任制が導入されているものの、国語の授業に関しては担任が担当するケースがほとんどであることから、担任としての授業力に国語の授業力が占める割合は高い。授業力を磨くにあたっては指導案作成が欠かせないが、学生に指導案を作成させると必ずといって良い程グループで話し合わせようとする。確かに「主体的・対話的で深い学び」への志向から対話的な学びの大切さが指摘されてはいるが、何のために何を、どのように話し合わせるのかが曖昧なままの、話し合い活動ありきの内容が多い。いま一度、国語力とは何か、国語科でつけたい資質・能力、国語科における「見方・考え方」とは何かを見据えた上での「対話的な学び」について研究・工夫していく必要がある。

#### 【計画】

「国語」「国語科教育」の授業において、以下のような手立てを研究・工夫する

#### ・国語（前期）

後期の国語科教育法の基礎段階として、まず学習指導要領の読み取り方に習熟させる。そして、漢字指導・書写指導を中心とした言語事項のミニ模擬授業を体験させることからはじめ、文学教材・説明文教材・詩教材・「聞く・話す」教材など様々なジャンルの国語教材を取り上げ、それぞれの教材のねらいを学習指導要領の内容と自力で照合できるようにする手立てや、簡単に作成できる授業構想の形式などを研究・工夫する。また、デジタル教科書の操作も体験させ、ICTを活用した授業実践につなげたい。

#### ・国語科教育法（後期）

前期「国語」で作成した授業構想を基にして指導案を作成させ、さらにその指導案をもとに模擬授業を実践する。指導案作成の際には、新学習指導要領で求められる国語科で目指す資質能力、「見方・考え方」を、単元や授業の目標にどのように落とし込み、学習活動を設定するか、そしてそれをどのように評価するかを考えさせる。その際、昨年度も効果的だった、全員の指導案の「本時の目標」を羅列して検討する活動を取り入れたい。また指導案をもとにした模擬授業では、全員が授業者となり、めざす資質能力を身に付けさせるにはどのような手立てが有効か検証させる。

### ○2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・西崎有多子 山本かほる『「資質能力目標」明確化による授業改善試案ーこの授業で何ができるようになるか』東邦学誌第48号第1号2019年
- ・白井克尚 今津孝次郎 山本かほる 他『教員養成におけるアクティブ・ラーニングの実践研究』唯学書房2024年

（学会発表）

（特許）

(その他)

- ・山本かほる『初任者研修 研修資料集』2019年
- ・山本かほる『小学校教員採用試験 面接・小論文対策資料集』2019年

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

日本国語教育学会

○自己評価

国語科におけるアクティブラーニングのあり方を追究する中で、「活動あって学びなし」にならないよう、1時間の授業の中でどんなことばの力をつけたいのか、という国語科における「資質・能力目標」を明確にすることを意識して研究してきた。昨年度、その集大成を、「教員養成におけるアクティブ・ラーニング」（共著）の「第3章 小学校国語科教育法におけるアクティブ・ラーニング」に、実践例2例を挙げてまとめることができた。

昨今、小学校国語科の教科書では、一単元の中に「読む・書く・聞く・話す」という言語活動を複数取り入れた単元構成になっているため、「この単元で伸ばしたい言葉の資質・能力は何か」が曖昧になりがちである。そのため、教材と学習指導要領に示された資質能力とが結びつかず、単元あるいは授業の目標設定の際に、授業者が迷いやすく、実際に学生が指導案を作成する時にもこの点で悩むケースが多いようである。この点を考慮し、学生が指導案作成の際に困らないような授業資料や指導案の見本を作る中で、それぞれの単元、あるいは本時でつけたい資質能力は何かを、その都度学習指導要領の記述に立ち返りながら自分自身が考えることができた。今後も、国語科でつけたい資質能力とは何かを考え、教材の特性を活かしながら、単元や授業の目標にどのように落とし込むかを追究していきたい。

### Ⅲ 大学運営

○目標・計画

#### 【目標】

教職をめざす学生を増やすための様々な取組みのさらなる向上をめざして教育学部の将来像につなげ、今後の大学運営に資する

新1年生のほとんどが、本学教育学部を選んだ動機として1年次からのサービスラーニング実習の魅力を感じる。特に小学校教師をめざす学生にとって、名東区内の小中学校での様々な活動は魅力があるようである。今年度も名東区小中学校長会と一層密接な関係を築き、さらなる連携の強化をめざして学生の活動機会を増やし、本学の伝統であるサービスラーニングの充実を目指して大学運営に貢献していきたい。

また、教員採用試験対策特別講座により、教職を真剣にめざす学生を徹底的にサポートするのも本学の強みとなっている。その強みを積極的に発信して教職をめざす高校生的心をつかむ方策を考え、教育学部の将来像につなげていきたい。

#### 【計画】

学校現場のニーズをふまえた計画

名古屋市立小学校で教職についていた経験や人脈をもとに、名東区小中学校長会長である上社小学校井本校長と緊密な連携をとりつつ、順次各校を訪問して本学の取組みへの理解を得ることとする。訪問においては、各校長との懇談から学校現場の行事予定やニーズを把握した上で、連携強化の協力を要請したい。また、昨年度まで派遣していなかった小学校にも働きかけ、学生の活動の幅

をもっと広げることも目標としたい。

教員採用試験対策特別講座についても、実務家教員として現場の最新情報を取り入れた内容を計画する。特に学生の苦手意識の強い小論文対策については、今年度新たな指導法を試してみたい。本学を卒業して現場に立つ学生が、より高い教師力を発揮できるようにし、本学のブランド価値向上の一端を担いたいと考えている。

#### ○学内委員等

教育学部部会委員長

教職支援センター運営委員会副委員長

サービスラーニング運営委員会委員

フィールドラーニングワーキンググループ委員

#### ○自己評価

教職支援センター運営委員会副委員長として、教職支援センターと教育学部との円滑な連携に尽力してきた。とりわけ、教職支援センターで主催する学生向けの諸講座について学部に周知するとともに、**TOPOS** や **TEAMS** の告知を見逃す学生が多いことから、配付用案内プリントを作成して授業内で配付するようにしたところ、昨年度よりも参加者を増やすことができた。また、2月に「教職セミナー」を企画し、終日開催で実施した。オリエンテーションで、教員採用試験に向けた心構えや実際の出願手続き、教員採用試験をめぐる動き、願書の書き方をレクチャーした後、愛知県・名古屋市で実際に面接官を経験した元校長数名を外部講師として、志望自治体ごとのグループに分けて個人面接演習、場面指導演習を実施した。志望自治体の面接・場面指導の過去問をあらかじめ渡して予習をさせたことが奏功して充実したセミナーとなり、受講学生からの高評価（事後アンケート評価 平均 4.9/5 点）を得た。

今年度から拝命した教育学部委員長としては、自分の担当する小学校教育実習だけでなく、幼稚園実習・保育実習・施設実習・介護等体験の円滑な実施に向けた調整・検討に努めた。

サービスラーニング運営委員会委員としては実習に向けた心構えの指導と、小学校との連携を担当した。名東区内の小学校との連携や、名古屋市教育委員会の土曜学習いきいきサポーター参加者募集・支援を通して、学生の活躍の場を増やすことができた。

フィールドラーニングワーキンググループ委員としては、2026 年度から始まる授業に向けて、他の委員とともにアイデアを出し合った。1 年次のサービスラーニングは、本学教育学部の志望動機に挙げる学生が多い、本学の強みとなっている授業だが、これを 2 年次以降にも発展的に展開し、さらなる強みとなるよう、今後とも検討を重ねていきたい。

## IV 社会貢献

#### ○目標・計画

##### 【目標】

地域に対する本学のクレドに基づき、地域との連携・貢献の向上・進化をめざす

地元の平和が丘小学校に教務主任として数年間勤務し、平和が丘学区連絡協議会と密接に関わった経験や、名古屋市教育委員会で勤務した経験を活かし、人脈のいっそうの開発や地域との連携強化に貢献したい。

##### 【計画】

名古屋市、特に名東区内の諸団体・関係機関・市立小学校と積極的に交流し、学生の諸活動への参加が円滑にできるようにする。

サービスラーニングの内容充実を図り、市内小学校、特に区内小学校との連携を図る。特に、名

古屋市教育委員会からの最新の通知・情報などを踏まえ、諸活動に参加する学生に、地域の実情や注意点を伝えていき、活動が円滑・効果的に進むよう支援していく。活動に参加させるにあたっては、本学校訓「真面目」を体現させるため、服装・態度・あいさつなど、本学を代表して参加する自覚をもたせるよう、事前指導に力を入れたい。また、サービ斯拉ーニングの一環として例年参加している「なごや土曜学習「いきいきサポーター」の活動についても、学生向け説明会にオブザーバーで出席して教育委員会担当者の話を直接聞き、市教委と密接に連携しつつ、積極的に関わっていききたい。

#### ○学会活動等

#### ○地域連携・社会貢献等

サービ斯拉ーニングにおける名東区内小学校へのボランティア派遣・名古屋市教育委員会事業の「名古屋市土曜学習いきいきサポーター」のとりまとめ役として、各学校・教育委員会との交渉・調整にあたり、以下の行事に学生ボランティアを派遣した。

前期

5月 運動会準備

猪子石小学校 平和が丘小学校 北一社小学校 本郷小学校

後期

10月 学習発表会・作品展運営補助

猪子石小学校 極楽小学校 猪高小学校

通年 名古屋市土曜学習いきいきサポーター

川中小学校 八事小学校 黒石小学校 東丘小学校 港楽小学校 清水小学校

牧野小学校 大生小学校 八幡小学校

#### ○自己評価

名東区内小学校へのボランティア派遣については、4月当初に名東区校長会会長（上社小学校 井本孝男校長）を訪問してサービ斯拉ーニングについてのご理解を得て、区内小中学校の行事予定を知ることができたため、交渉を円滑に進めることができた。各学校の担当教員を決めて学生の事前指導を数回に分けて念入りに行い、当日も担当教員が手分けして現地に出向いて指導した。

一昨年度から担当することになった「名古屋市土曜学習いきいきサポーター」のとりまとめについては、名古屋市教育委員会指導室の担当指導主事と連携を図り、学生向け活動説明会にも出席して、円滑な学生派遣を心がけた。

#### V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

##### ○高校への出張授業について

10月17日（木）に、要請により愛知県立知立高等学校の3年生の「国語表現」の授業の一環として出張授業を行った。「大丈夫です」「おつかれさま」などの解釈の世代による違いやLINEによるトラブル、ノンバーバルコミュニケーションなど、高校生にとって身近な日常における言語生活を取り上げて一緒に考える内容とした。最後に詩の群読を役割分担して全員で行い、大いに盛り上がりつつ終わった。考察・感想として

「講義楽しかったです。大学の授業って基本的に長いって聞いて憂鬱でしたが、こんなに楽しそうならすぐに行きたいなって思いました。」

「先生の話し方や授業の進め方が面白く、最後まで楽しく学ぶことができました。」

「今回の講義で日本語の深さを実感できたので、もっと日本語に興味がわきました。」

「講義で取り上げられた内容のほとんどが自分が実際に経験したことのある事例だったので、内容を聞いてしみじみ共感しました。僕は特に LINE で誤解をうみやすいです。」

など多数の好意的な感想が寄せられた。

今回は「国語で」という指定だったが、教職に関する授業内容も含めて、本学教育学部の魅力の発信方法の一つとして、今後も機会を頂ければ高校への出張授業を行いたい。

## VI 総括

昨年度に引き続き、教員採用試験の早期化や試験内容の改編などの動きが激しく、常にアンテナを張り、最新情報の収集・対応に努めた1年であったが、多くの教職員の皆様の温かなご指導・ご高配を得て、ここまで過ごすことができた。とりわけ、教務課のスタッフのみなさまには感謝したい。

目の前には教育学部の志願者の伸び悩みという厳しい現実があるが、学部の将来像をどうするか、その中で実務家教員として自分にできることは何かを常に考え、それらを踏まえて学部の先生方・大学スタッフの方々とともに、今後も最善を求めて対応していきたい。

以 上